

# モバイル接続料の適正性向上について

---

令和6年10月30日

事 務 局

検討事項

◆ 令和5年度に届出のあったデータ接続料については、NTTドコモについては接続料の低減が続く見込みであるが、KDDI及びソフトバンクについては2026年度接続料は上昇に転じる見込み。費用配賦見直しの影響のみならず、事業者によって接続料算定における5G(SA方式)に係る費用及び需要の扱いが異なっている点が影響していると考えら、MNO3社に説明を求めたところ、以下のとおり説明があった。

- 当社は、音声接続料及びデータ接続料について、**4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)を一体として算定**。【NTTドコモ】
- データ接続料については、**MVNOが利用しない設備は接続料対象から除外して、4G・5G(NSA方式)のみによる算定**。音声接続料については、VoNR(Voice over New Radio)による音声提供開始までの期間の設備も含め、**音声相互接続事業者が利用しない設備は対象から除外して算定**。【KDDI】
- 音声・データ共に接続料原価、及び需要から**5G(SA方式)に係るものは除外**(現時点におけるMVNOとの利用実態との整合性を確保)。【ソフトバンク】

NTTドコモ

KDDI

ソフトバンク

--

--

--

主な意見

① 事業者からの意見

- 以下の観点から、**4G・5G (NSA方式) 及び5G (SA方式) に係る接続料を一体として算定することが適当**。【NTTドコモ】
  - 4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) は、一般的な利用者のユーザ体感に大きな差異はなく、**利用者からみたサービスの連続性があること**
  - 新たな機能提供に際しては、先行して設備投資が必要となる一方で、初期需要は小さいことから、当該機能に係る接続料を**単独で設定した場合、その水準が高額になるリスクがあること**
  - 実際に4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) のそれぞれについて費用及び需要を大胆に推計した結果、5G (SA方式) に係る接続料が高額になると想定されること
  - MNOとMVNOの同時期提供やMVNOを含めた5G (SA方式) の利用促進を図るため、**導入当初の利用を容易にすること**
- 「4G・5G (NSA方式) のみの接続料算定」と「4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) を一体とした接続料算定」の**いずれも一定の合理性がある**と考える。【KDDI】
  - 「4G・5G (NSA方式) のみの接続料算定」の合理性
    - **MVNOが利用しない5G (SA方式) の設備は除外して算定していること**
  - 「4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) を一体とした接続料算定」の合理性
    - **基地局設備は5G (SA方式) と一体的に運用されること** (但し、コア設備は5G (SA方式) と一体的に運用されていない)
    - 5G (SA方式) サービスは、まずは、4G・5G (NSA) 方式サービスを発展させた「大容量・超高速」から開始されているため、**当面は同質のサービスと考えられること**
- 以下の観点から、**4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) を一体とした接続料算定にも一定の合理性**があると考え。【ソフトバンク】
  - 5G (SA方式) における大容量サービスは、**5G (NSA方式) のサービス (スマホ利用等) の延長線上と位置づけられること**
  - 一体算定とすれば、5G (SA方式) への移行が進んだ場合も、**接続料水準が平準化されることから、MVNOへの影響も軽微となると想定されること**
- 費用配賦見直しの激変緩和措置がFY24・25適用接続料にて行われること、及び現時点において当該機能の開放時期がFY26以降と想定されることを踏まえれば、**一体算定とする場合の適用開始時期は、早くともFY26適用接続料からとすることが適当**。【ソフトバンク】
- なお、「大容量」以外の**5G (SA方式) 独自のサービス** (「多接続」「低遅延」等) の**接続料**の在り方については、当該サービスの提供状況や実現方法を踏まえ、**改めて検討すべき**。【ソフトバンク】
- 接続料の算定に当たっては、恣意的な費用計上・配賦や需要の算定がなされないよう、**適切かつ共通的な考え方をを用いることが、適正性確保の観点から重要**。接続料における5G (SA方式) に係る費用及び需要の取り扱いは、MVNOの経営に大きな影響を及ぼす可能性もあるため、**4G・5G (NSA方式) と一体の接続料として算定する場合と、4G・5G (NSA方式) のみの接続料として算定する場合のそれぞれの影響の度合いを試算のうえ検証いただくことを要望**。【MVNO委員会】

## 主な意見(続き)

### ② 構成員からの意見

- ▶ 本研究会として5G(SA方式)を推進する立場からすれば、**初期の立ち上げを容易にするために一体算定とするほうがよい**と考えるが、例外的に、**5G(SA方式)導入の意向が全然なく4Gで十分だ**というMVNOにとっては割高になるのではないかと**いった意見もあり**、どのような算定方法がよいか慎重に議論したい。
- ▶ 現在の4G・5G(NSA方式)の接続料は帯域課金になっているが、5G(SA方式)になると、**超大容量通信、超高信頼・低遅延通信、超多元接続**と、少なくとも3つの通信モードがある。超大容量通信に関しては今までの延長で問題ないと思うが、**超高信頼・低遅延通信、超多元接続**については帯域課金が適切なのか、例えばIoTサービスのために超多元接続しか使わないMVNO向けの接続料を帯域課金にするのが適切なのか**といったことは、しっかりと検討しなければならない**。
- ▶ 今の段階では、**4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)を一体的に算定することでよい**と考える。**MNO各社においてしっかりと接続料の試算をいただき、その推移を見ながら必要に応じて議論を深めること**としたい。
- ▶ **ネットワークの仮想化等が実現し、5G(SA方式)のサービス品質が4G・5G(NSA方式)のサービスと差別化されるようなことになれば、それに見合った接続料が実現できるのではないか**。

## 考え方

- ◆ 総務省において、**MNO各社に対して、データ接続料について、4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)を一体として算定する場合と、4G・5G(NSA方式)のみの接続料を算定する場合のそれぞれの推移の見込みについて、試算を求めることが適当**である。
- ◆ 5G(SA方式)によるサービスは**当面の間は4G・5G(NSA方式)サービスの延長線上と位置づけられること、4G・5G(NSA方式)の接続料と5G(SA方式)の接続料をそれぞれ算定する場合**、各接続料が需要の大宗を占めるMNOの利用者の5G(SA方式)への移行の状況により、**いずれかの接続料が高額になるリスクがあること**等を踏まえれば、上述の試算の結果、**接続料水準の大幅な上昇等といった特段の問題が生じない見込みであることが確認される場合には、4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)を一体とした算定を共通的な考え方とする方向で検討することが適当**である。
- ◆ その際、**データ接続料については、費用配賦見直しの激変緩和措置が2024年度・2025年度接続料に適用されることを踏まえれば、少なくとも2026年度接続料から、4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)を一体とした算定とする方向で検討することが適当**である。
- ◆ **音声接続料については**、接続料原価に5G(SA方式)に係る費用を算入するかどうかについて、MNO各社で共通的な考え方が採用されることが望ましいことから、費用配賦見直し結果の検証と合わせて、5G(SA方式)に係る資産及び費用について音声/データ伝送役務間で配賦する際の考え方について検討し、**できる限り早期の接続料から共通的な考え方を適用することが適当**である。
- ◆ なお、スライシング等の**5G(SA方式)ならではのサービスの提供に向けた状況に応じて、5G(SA方式)の接続料の在り方について改めて検討することが適当**である。

## 今般の議論

- ◆ 今般、本研究会第八次報告書及び、MNO各社による、4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)を一体として算定する場合と、4G・5G(NSA方式)のみの接続料を算定する場合のそれぞれのデータ接続料の推移の見込みについての試算結果を踏まえ、**接続料水準の大幅な上昇等といった特段の問題が生じない見込みとなっているか、4G・5G(NSA方式)と5G(SA方式)を一体とした算定を共通的な考え方とする方向で問題ないか等について検討する**。

- ◆ MNO各社による、4G・5G（NSA方式）及び5G（SA方式）を一体として算定する場合と、4G・5G（NSA方式）のみの接続料を算定する場合のそれぞれのデータ接続料の推移の見込みについての試算結果は以下のとおり。
- ◆ なお、今回の試算は、2023年度に届出された予測接続料をベースとし、2024～2026年度に適用される予測接続料を試算したもの。費用配賦見直し前の2022年度接続会計を基礎として算定したものであり、費用配賦見直しの激変緩和措置として2024年度及び2025年度接続料は費用配賦の見直し前の水準を維持し、2026年度接続料は予め見直し後の接続料水準を予測し算定している。

## データ伝送交換機能

### (1) 回線容量単位接続料

(10Mbps・月当たり)

	4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)を一体として算定			4G・5G(NSA方式)のみの接続料を算定		
	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度	2025年度	2026年度
NTTドコモ	12.8万円	10.8万円	10.7万円			
KDDI・沖縄セルラー・UQ				10.8万円	10.1万円	11.8万円
ソフトバンク・WCP				9.4万円	8.9万円	9.3万円

(2026年度において費用配賦見直しを考慮)

### (2) 回線数単位接続料

(1回線・月当たり)

	4G・5G(NSA方式)及び5G(SA方式)を一体として算定			4G・5G(NSA方式)のみの接続料を算定		
	2024年度	2025年度	2026年度	2024年度	2025年度	2026年度
NTTドコモ	63円	61円	61円			
KDDI・沖縄セルラー・UQ				69円	68円	68円
ソフトバンク・WCP				86円	84円	84円

◆ NTTドコモは、届出接続料において、**4G・5G（NSA方式）及び5G（SA方式）を一体として算定。**

## 接続料の推移

## 原価、利潤及び需要の推移

5G(SA)一体算定(実線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)	12.8 (▲17.8%)	10.8 (▲15.5%)	10.7 (▲1.5%)

(10Mbps当たり・月額)

4G・5G(NSA)のみ(点線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)			

【参考】5G(SA)のみ

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)			

5G(SA)一体算定(実線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

4G・5G(NSA)のみ(点線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

【参考】5G(SA)のみ

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

※ 括弧内は対前年度増減率。

※ 5G(SA)のみについては、総務省において計算したもの

◆ KDDIは、届出接続料において、**4G・5G(NSA方式)のみの接続料を算定**。

## 接続料の推移

## 原価、利潤及び需要の推移

5G(SA)一体算定(点線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)			

(10Mbps当たり・月額)

4G・5G(NSA)のみ(実線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)	10.8 (▲17.3%)	10.1 (▲6.6%)	11.8 (+16.7%)

【参考】5G(SA)のみ

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)			

※ 括弧内は対前年度増減率。  
 ※ 5G(SA)のみについては、  
 総務省において計算したもの

5G(SA)一体算定(点線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

4G・5G(NSA)のみ(実線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

【参考】5G(SA)のみ

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

◆ ソフトバンクは、届出接続料において、**4G・5G(NSA方式)のみの接続料を算定。**

## 接続料の推移

## 原価、利潤及び需要の推移



5G(SA) 一体算定(点線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)			

(10Mbps当たり・月額)

4G・5G(NSA)のみ(実線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)	9.4 (▲25.3%)	8.9 (▲5.4%)	9.3 (+3.9%)

【参考】5G(SA)のみ

年度	2024年度	2025年度	2026年度
接続料 (万円)			

5G(SA) 一体算定(点線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

4G・5G(NSA)のみ(実線)

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

【参考】5G(SA)のみ

年度	2024年度	2025年度	2026年度
原価 (億円)			
利潤 (億円)			
需要 (Gbps)			

※ 括弧内は対前年度増減率。  
 ※ 5G(SA)のみについては、総務省において計算したもの

## 考え方(案)

### (前提)

- ◆ 4G・5G (NSA方式) 及び5G (SA方式) に係る接続料を一体として算定する場合、5G (SA方式) に係る設備投資により原価が増加することで、接続料が上昇する可能性がある。また、4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) の接続料を別々に算定する場合、需要の大部分を占めるMNOの利用者が5G (SA方式) に移行することにより、4G・5G (NSA方式) の需要が減少し、4G・5G (NSA方式) の接続料が上昇する可能性があり、特に予測接続料については、MNOの需要の予測方法が接続料水準に大きく影響する可能性がある。

### (試算結果)

- ◆ 今般のMNO各社によるデータ接続料(回線容量単位接続料)の試算結果は、少なくとも**2026年度接続料においては**、3社とも、原価全体に占める5G (SA方式) の割合を、需要全体に占める5G (SA方式) の割合が上回り、4G・5G (NSA方式) のみ接続料と比べて**5G (SA方式) を一体として算定する接続料の水準が低額**となる結果となった。

具体的には、①**5G (SA方式) に係る原価及び需要が早期に拡大**すると予測する事業者においては、2024年度接続料から、4G・5G (NSA方式) のみ接続料と5G (SA方式) を一体として算定する接続料が同額、又は、5G (SA方式) を一体として算定する接続料の水準が低額となっている一方、②**5G (SA方式) に係る原価及び需要が当面は僅少**と予測する一部の事業者においては、2024年度接続料及び2025年度接続料は、4G・5G (NSA方式) のみ接続料と比べて5G (SA方式) を一体として算定する接続料の水準が高額(ただし、接続料の水準差は小さい)となっている。①、②いずれの事業者においても、2026年度接続料においては、5G (SA方式) を一体として算定する接続料の水準が低額となっている。

- ◆ なお、データ接続料(回線数単位接続料)の試算結果については、4G・5G (NSA方式) のみ接続料と5G (SA方式) を一体として算定する接続料で大きな水準差が存在しない結果となっている。

### (試算結果を踏まえた考え方)

- ◆ 試算の結果、少なくとも回線容量単位接続料については、接続料水準の大幅な上昇等といった特段の問題が生じない見込みとなっている。また、2026年度接続料においては、4G・5G (NSA方式) のみ接続料と比べて5G (SA方式) を一体として算定する接続料の水準が低額となっていることから、仮に、5G (SA方式) 導入意向がなく4G・5G (NSA方式) のみで十分だというMVNOが存在する場合であっても、一体算定が望ましいと考えられる。
- ◆ 以上の点及びデータ接続料について費用配賦見直しの激変緩和措置が2024年度・2025年度接続料に適用されることを踏まえれば、**少なくとも2026年度予測接続料から4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) を一体とした算定を共通的な考え方とすることが適当**ではないか。
- ◆ ついては、総務省において、**MNO 3社に対し、今年度以降の予測接続料の届出においては、少なくとも2026年度接続料から、4G・5G (NSA方式) と5G (SA方式) を一体とした算定とすることを要請することが適当**ではないか。